

問題解決能力の育成と地域産業の活性化

大阪府立清水谷高等学校教諭 稲川 孝司

1. はじめに

平成15年度から、情報活用の実践力、情報の科学的な理解、情報社会に参画する態度を目標として教科「情報」の授業が始まった。教育課程審議会と中央教育審議会の答申は、「学校の自主性・自律性の確立」を踏まえた「特色ある開かれた学校」作りを通して「ゆとりの中で生きる力」の育成をめざしている。しかし、連携の必要性が叫ばれているにもかかわらず、前例や慣習にとらわれ「開かれた学校」にほど遠いのが現状である。そこで、以下の内容を目標に授業を行った。

(1) 学校という枠の中の閉鎖的な状態から脱却し学校が地域社会と連携することで、開かれた学校として学校教育の弾力化を図る。

(2) 高校生と地元商店主との双方向の交流を通して、商店街の活性化や地域産業の活性化、地域に根ざした青少年活動の活性化などをはかり、地域コミュニティの形成や町作りに貢献する。

(3) 具体的な「ちらし」や「Webページ」作成を通して、今まで学んできた情報関連の知識や技能を生かして主体的に資料収集や調査研究する方法を身につけ、問題を解決する能力を養うとともに、情報機器を活用してプレゼンテーションや作品作りで情報活用能力を高める。

2. 実践方法

2.1 実践に至る背景

平成15年度から始まった教科「情報」において、指導要領の目標教育である情報活用の実践力を深

化・定着させるために、今まで様々な取り組みを行ってきた。問題解決学習の実習授業をするにあたり、テーマを設定した調べ学習でその結果を発表する授業を計画し、「ポスター作成」や「Web作成」と、それらのプレゼンテーションの授業を考え、これらの実習で情報活用能力の向上をめざそうとした。

しかし、インターネットで調べた内容をコピーしたり、写真を貼り付けたり、自分の作った画像を入れたりして完成した作品において、生徒たちは自分の作った作品が一番良いと思っているため、教師と生徒の作品の評価が大きく異なることが多い。そのため、生徒相互の評価も加味して作品を評価してきたが、実体を伴わない作品では正しく評価ができない。

そこで、自ら調べて考える問題解決の授業を目指して、学校近くの玉造日之出通北商店街（大阪市天王寺区）（図1）の協力を得て、具体的な商店の「ちらし」や「Webページ」を作成する実習に取り組んだ。



図1 玉造日之出通北商店街

この商店街は、大阪の他の商店街と同じく、景気の低迷や大型店の進出などで空き店舗が増え、かつての賑わいが失われつつある。また、商店主の高齢化に伴いIT化や電子商取引に追いつけず、店の雰囲気も若者にとって魅力が乏しい。商店街全体のWebページはあるが、簡単な店の紹介だけで、ほとんどの商店はインターネット接続をしておらず、商店街のページを見たこともない状態である。

授業を行うに当たり、高校生が商店街に行くことで活性化に結びつけばよいという商店街側からの要望と、学校側からは学校と地域が連携した教育の実践ができること、地域の教育力を得て情報の具体的な作品作りができるという、両者の思いが一致して今回の授業実践をすることができた。

2.2 授業内容

対象生徒は2003年度に1年生で「情報A」を履修し、2004年度に「情報B」を選択科目として履修した生徒20名（男子8名、女子12名）である。

授業内容は、店で活用できる実用的な「ちらし」ならびに「Webページ」の作成と、それらのプレゼンテーションである。高校生が商店街に行き、商店街の実情を見て（図2）、その店の情報を取材し収集して（図3）、その店にふさわしい「ちらし」や「Web」はどのようなものかを若者の視点から考え、考えた内容を提案し、プレゼンテーションして（図4）、内容を商店主に評価していただくのである。4名1班のグループ学習で、情報の収集、整理、伝達、技術の養成を図った。

「ちらし」は店頭に貼りだして使ってもらふことと、「Webページ」は商店街が提供している



図2 商店街で下見中の生徒



図3 取材中の生徒



図4 プレゼンテーション公開授業中

Webページに生徒作品集として載せてもらうことを条件に作成することにした。

2.3 授業スケジュール

以下に授業スケジュールを示す。

4月	商店街理事会と打ち合わせ
6月	商店街の理事会から商店街の歴史と現状についての生徒への講義
8月	商店主対象のIT講習会（図5）
10月	商店街の下見（印象や問題点、改善点などの報告書を作成）
	グループを作成し、商店を決定
	取材活動
11月	コンセプトシートと「ちらし」の作成
12月	作品の修正
	プレゼンテーション公開授業（図4）
	「ちらし」を店前に貼りだしてもらう
1月	Webページのための取材と作成
2月	Webページ作成
	商店街HPへの生徒作品アップ

なお、Webページとインターネットの関係を紹介する講習（IT講習）を商店主に対して行った（次ページ図5）。



図5 商店主対象のIT講習会

2.4 授業の特徴

この授業の特徴は、作品の生徒へのフィードバックである。生徒が作成した「ちらし」を商店へ持っていき、忌憚のない、作品に反映するための積極的な意見を求め、これらの意見を生徒に返して、作品を修整させた。このブラッシュアップ作業を行うことで、商店主側に立った考え方を理解し内容を再検討した結果、作品の質が良くなった。

次に、校外に発表場所を設定して、この一連の作業手順や、なぜこのような「ちらし」を作成したか、キャッチコピーやレイアウトを工夫した点、どこがセールスポイントなのか、などをパワーポイントで生徒が商店主に説明、発表することにした。

発表は発表時間を決め、普段の授業とは別の場所（視聴覚室）で練習し本番に臨んだ。練習では、校長の前で、適度な緊張を保ちながら発表をした。発表終了後には、話し方、パワーポイントのスライドとのマッチング、立つ位置や姿勢、内容、表現方法、アイコンタクトなど多岐にわたって、生徒と話し合いをした。この時も発表の方法を生徒にフィードバックして、より良いものを目指すようにした。

本番の発表会は商店街にあるホールで行った。評価は、商店主、担当教員、参加した教員、生徒、それぞれの持ち点を合わせた合計点を評価点にした。なお、発表前日まで、パワーポイントのデータ作成、写真の入れ替え、話の内容の校正など生徒は積極的に作業していた。また、発表態度と内容は日ごとに良くなっていった。

そして、発表後、店に「ちらし」を持っていき、「店の人に喜んでもらえたのが一番よかった」と



図6 店頭に貼りだしてもらった「ちらし」

生徒たちは感想を述べていた。実際、すべての店頭に「ちらし」を貼ってもらった（図6）。

店のWebページの作成は、あらかじめレイアウトシートを作成し、どのようなページを作成するかを考えた上で取材し、必要な写真を撮ることにした。前回の「ちらし」取材で、どのように聞き出せば必要なことを引き出せるかがわかっていたため、スムーズに運んだ。Webページはメモ帳で作成できる単純なものをHTMLタグで作成した。ここでは、壁紙やイラストなど著作権があるものの利用について、了解を取ることの必要性を説明し、メールで許諾の手続きを得たものだけを使うことで、Webページを作成させた。できあがったWebページは商店街のページの中に、生徒作品集という形で載せてもらった¹。

2.5 授業評価

一般に、生徒の評価方法は、作品の提出内容や試験などで評価するのであるが、グループ作品の場合、個人ごとの評価ができない。そこで、完成した作品と発表内容ならびにそのプロセス過程において、自己評価、相互評価などを取り入れて評価した。具体的には毎回の作業ごとに4人のグループ内で相互評価し、割り切れない数字（13点）を分配するようにした。そして、グループ全体の評価点に毎回の相互評価を掛けた点数を個人の相互評価点とした。

このことは、生徒は全員同じことをしなくても、各自が得意な分野をすることで作品ができるた

1 清水谷高校生徒による玉造日之出通北商店街紹介ページ
http://hinode.org/simizudani_2004/

め、習熟度の差があってもそれを吸収できるメリットがあった。

3. 生徒作品について

以下に、グループごとの「ちらし」作品を一部提示する。なお、左側ははじめに生徒が作った作品、右は修整後の作品である。残念ながら本誌のページは白黒なので、興味ある人は商店街Webページで色づかいの様子をカラーで是非見てほしい。



図7 「ちらし」の一例（マツムラ）

図7において、左は和菓子のイラストが載っているが実際には商品として扱っていないためカットし、写真上の文字は見づらいので写真下に移動し、完成したのが右の「ちらし」である。

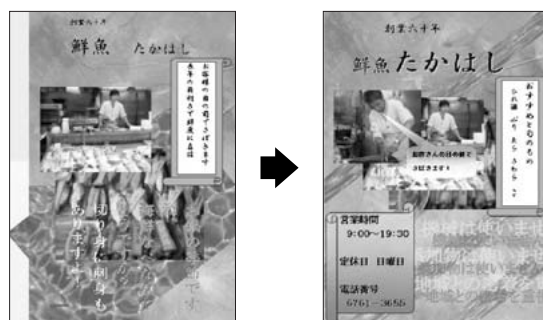


図8 「ちらし」の一例（たかはし）

図8においては、店の基本情報が欠落しており、また魚の写真が新鮮なイメージでないため、大幅に修整を行った。また、文字と背景のコントラスト

と、縦書きと横書きの混在をそれぞれ見やすいように修整した。

4. おわりに

今回の実践により、学校教育の活性化に向けて、商店街の理事による講演、学校開放講座の開設、取材のための商店街視察、公開授業での店主と教員による評価、活動内容の新聞への掲載など、さまざまな活動により、学校と地域が双方向に連携し、開かれた学校作りが可能となった。

ITを活用した作品は、デジタルであるが故の評価の難しさがある。完成した作品のできばえだけでなく、利用した技術やセンス、そこにたどり着くまでの様々なプロセスなど、評価項目もいろいろ考えられる。情報の授業において、どのような教材を使ってどのように授業をすれば効果的かについてはさまざまな取り組みが行われているが、商店で利用できる具体的な「ちらし」や「Webページ」作成の教材は、実践する環境が整えば有効な方法であり、問題解決学習への一歩と考える。

実際に、生徒たちが普段あまり接したことがない大人との会話の中で、必要な正しい情報を得るために苦労して取材活動をしたことは、生きた教材として生徒の成長に役立った。また、商店のチラシやWebページの作成においては、目標である内容が明確であるので、生徒の授業でのパソコンのリテラシーの向上が著しかった。イラストや壁紙などの利用についても、生徒たちが著作者にメールを出して許諾をもらえたことは、情報社会でのモラルの実務的な勉強になった。

評価方法については、まだまだ改善すべきものがあるが、評価結果から教師と生徒が互いに学習について振り返ることで、さらに良い授業ができればと考えている。

2. 読売新聞：「足で情報収集 「ちらし」 PCで」、2004年12月18日
- ・大阪日日新聞：「若い感性で商店街「ちらし」、2004年12月18日
- ・日本教育新聞：「高校生が商店街の「ちらし」作成 地域と連携した情報教育」、2005年1月7日